

CONTENTS

- P 2 ごあいさつ・2023年 2024年ハイライト
- P 3 ORGAN事業構成マップ
- P 4 [特集]ぎふ長良川めぐるツアーズ
- P 6 [特集]『長良川×探究』制作・編集
- P 8 ORGANロジックモデル
- P10 インバウンド誘客 DMC事業
- P12 CASA stella開業
- P14 みんなの図書館おとなの夜学
- P15 ぎふメディアコスモスコンセプトブック制作
- P16 2023年度 2024年度 活動計算書
- P18 数字でみるORGAN
- P19 2025年度事業方針
ORGANの活動に参加するには



ANNUAL REPORT 2023-2024



団 体 名 NPO法人 ORGAN
所 在 地 岐阜市湊町45
設 立 平成23年2月17日
理 事 長 蒲 勇 介
事 業 内 容 長良川デパート・和傘CASAにおける小売事業、ORGANキモノレンタルサービス、オンパク手法による地域支援事業、長良川流域観光推進協議会各種業務、その他観光まちづくり支援事業

取 引 先 岐阜県、岐阜市、(株)JT中部、
(株)JT、名鉄観光サービス(株)、
近畿日本ツーリスト(株)

T E L 058-269-3858
F A X 058-269-3857



N P O 法 人
O R G A N
年 次 報 告 書



ごあいさつ

さらなる長良川流域観光の充実をめざし コンテンツ造成や町家改修に取り組む

まずは2023年度の年次報告書が大変遅れましたことをお詫びするとともに、2024年度との合併号になりましたことをご報告申し上げます。

2023年度から2024年度にかけても様々な変化がありました。まずは、ORGANが提供する観光・サービスコンテンツを集約したWEBサイト「ぎふ長良川めぐるツアーズ」を立ち上げ、まちあるき、工芸体験、着物レンタルなどが気軽に申し込めるように整えました。さらに同事業の中でも、2024年度からは「日にち限定ツアー」から「いつでも体験」にメインをシフトするなど、ブラッシュアップをしてきた2年間となりました。お客様のニーズと、ORGANが伝えていきたいことを

見直し、さらに体験スタジオの場所も整備し、現在に至ります。詳細は特集ページをご覧ください。
また2024年度末には、あらたな複合文化施設CASA stellaを開業。ファンドレイジング、地域での調整、設計・施工、既存店舗からの移転、営業スタートと、目まぐるしい1年となりました。こちらも開業までのあゆみや建物のポイントなどを本書に掲載しておりますので、ご覧ください。

私たちが目指す社会・地域とはなにかを常に考えながら行動し、前に進んでいきたいと考えております。本書をお読みの皆様も、いろいろなかたちで一緒に歩んで頂けると幸いです。

NPO法人 ORGAN 理事長 蒲勇介

2023年度ハイライト

1 んぐふ長良川めぐるツアーズスタート



2 『長良川×探究』制作・編集



2024年度ハイライト

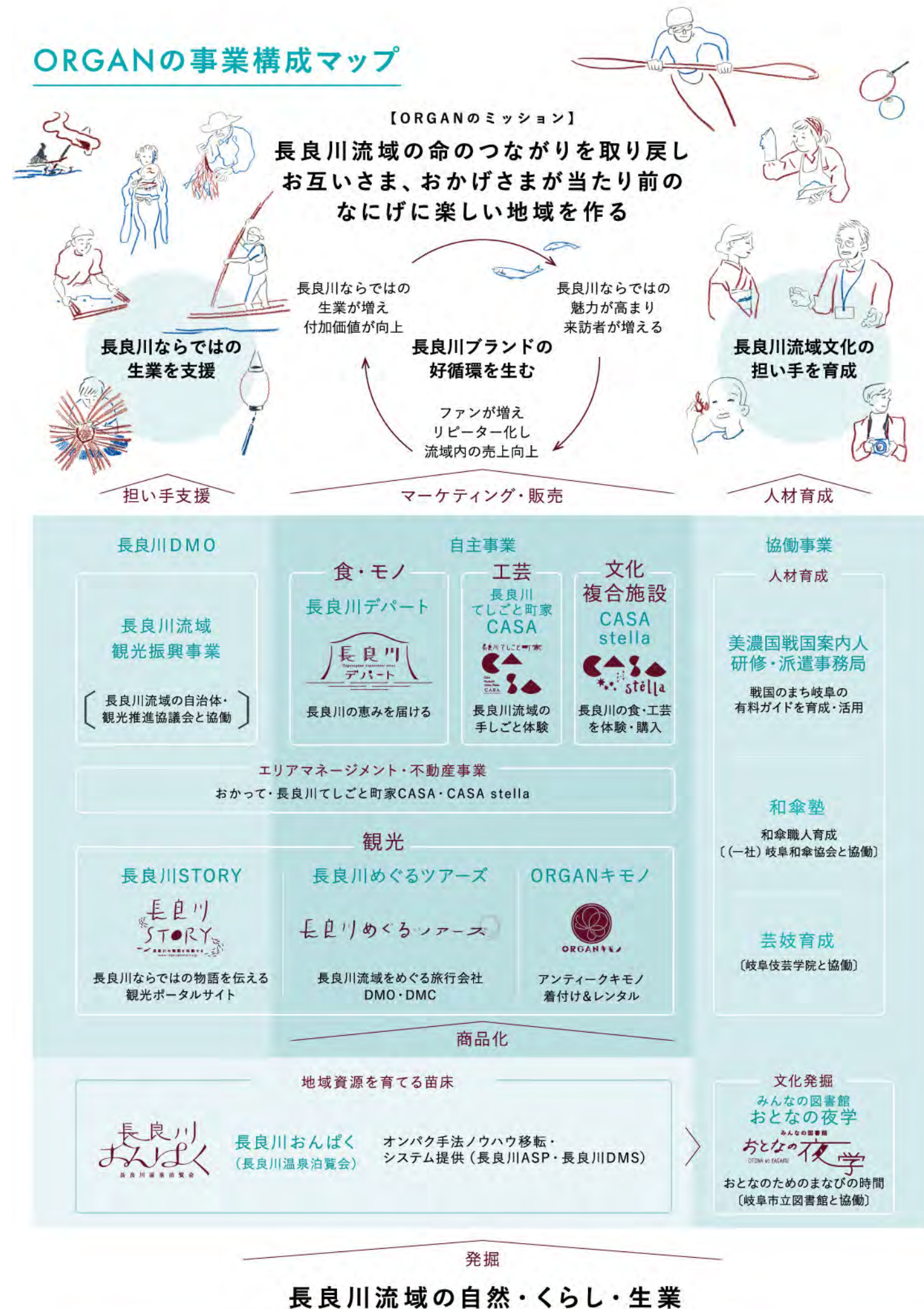
1 CASA stella開業



2 インバウンド誘客 DMC事業



ORGANの事業構成マップ



岐阜市を旅する人に届けたい情報を

ぎふ長良川めぐるツアーズ

東海三県で展開してきた「まいまい東海」での経験を基に、長良川流域を軸とした新事業「ぎふ長良川めぐるツアーズ」を開始しました。本事業は、特定日程の特別な旅から、随時参加できる体験まで多彩なプログラムを展開しています。「当日OK!いつでも体験」では、流域ならではの工芸を生か

したぎふ和傘バッチづくりやぎふ提灯絵付け体験などを開催。事前予約制の着物・岐阜和傘レンタルや歴史ガイドのまち歩きも好評で、地域の文化を深く掘り下げる体験型観光を引き続き提供してまいります。

事業の背景

金華山のふもとにある川原町は、かつて長良川の川湊として栄えた湊町であり、ここに荷揚げされた木や竹、和紙などの原料が、多様な工芸品へと昇華してきた歴史を持ちます。「ぎふ長良川めぐるツアーズ」を始めたのは、この地域ならではの工芸文化を紹介し、訪れる方々に長良川の恵みから生まれた和傘、提灯、ぼんぼりを知っていただくためです。体験を通じて工芸の魅力に触れていただき、親しみを持っていただくことを目的としています。

体験のご紹介

その他体験はwebサイトをご覧ください
<https://gifu-nagaragawa.jp/>



日本一の提灯のまち、岐阜で
ぎふ提灯絵付け体験



レトロ可愛い和のあかり
ぎふぼんぼり絵付け体験



美濃国 戦国案内人ガイドと行く
戦国まちあるき



日本一の和傘の和紙で小さなぎふを持ち帰ろう！
「ぎふ和傘バッチ」づくり



撮影、ランチ、まちあるきに！
レトロ可愛いアンティーク着物レンタル



気軽にテイasting! エモい角打ち
ぎふ長良川の地酒飲み比べ



岐阜城と信長居館跡ガイドツアー



川原町散策ガイドツアー



ぎふ小傘づくり体験



ぎふ提灯絵付け体験 出張講座(スペインからの団体受け入れ)



ぎふ提灯絵付け体験

体験を実施して見えてきたこと

人々が旅行に求めるものは、近年「モノ」から「コト」へと変化してきました。「体験」を通して、長良川流域のてしごとにじっくり向き合い、完成した作品がお手元に残ることで長良川流域文化を感じ続けていただけるのは大変うれしいです。また、滞在時間が長くなることで、「このあたりで食事をしてから移動しよう」という行動になり、経済効果も感じています。

事業責任者の声

知って親しんでいただくことで、長良川流域で生まれ育まれた工芸を守れると考え、体験指導を担当しています。お客様は全国のみならず海外からも訪れます。岐阜と工芸の魅力を感じ、好きになっていただけるよう、日々努めます。(木村)

さらに、1学年5名ほどの小規模学校、特別支援学校、海外との交流事業など団体のお問い合わせも増えてきました。地域について楽しく、深く知ることのできる体験が今、求められていると実感しています。あらたな体験コンテンツの作成やブラッシュアップを行いながら、訪れたい町となるように運営していきたいと思っています。

岐阜市において有償ガイドによる内容のあるツアー提供を今後もできるようにするためには、新しいガイドの育成や現在活動しているガイドのさらなる力量向上、そしてガイド実践の場を増やすことが求められます。長良川流域の文化、歴史、工芸などの魅力を伝えられるように人材育成、商品開発、地域との信頼関係づくりに努めます。(田口)

中高生向け SDGs学習旅行ワークブック

『長良川×探究』 制作・編集

長良川流域観光推進協議会の流域のサステナビリティを伝える事業の一環として、中高生、特に県外からの修学旅行生に向けた長良川をフィールドとした探究学習用テキスト「長良川×探究」を制作しました。「長良川システム」や「清流長良川の鮎」の紹介に加え、流域で生業を立てる人々を「野生の起業家」と名付け、彼らのオルタナティブな生き方に迫ることで、キャリア形成や生き方在り方を考えることができる内容になっています。

学生向けのワークブックに加え教師用解説書も整備し、修学旅行や探究学習の現場での活用を目指しながら、今後は企業研修向けの教材や研修ツアーなど、幅広い世代に向けた資料の整備も進めています。

長良川流域を学びのフィールドとして位置づけ、多様な主体を受け入れることで地域の事業者の収益を確保しつつ、多様な人々との交流を通じて「野生の起業家」的な内発的な地域資源活用の意欲を養うものになればと考えています。



発行までのプロセス

- STEP 1**
長良川流域観光推進協議会との協議

「サステナブルツーリズム」推進の機運の高まりの中で、より効果的に長良川流域の魅力を伝えるために修学旅行市場をターゲットにした事業提案を実施
- STEP 2**
連携事業者の選定

企業研修の受け入れをきっかけに知遇を得た「地域探究」の分野で実績がある教材制作会社「トモノカイ」をパートナーに選定
- STEP 3**
取材・編集

流域内の多様な起業家への取材を実施。流域資源の学習を通して中高生がキャリア形成について考えることができる構成
- STEP 4**
メディア掲載

新聞各社に取材いただきました
→朝日新聞 2024年5月31日
→中日新聞 2024年5月8日



トモノカイwebサイト
<https://tankyu-skill.com/kyozai/nagaragawa>

長良川STORY 特設サイト
<https://nagaragawastory.jp/tankyu>



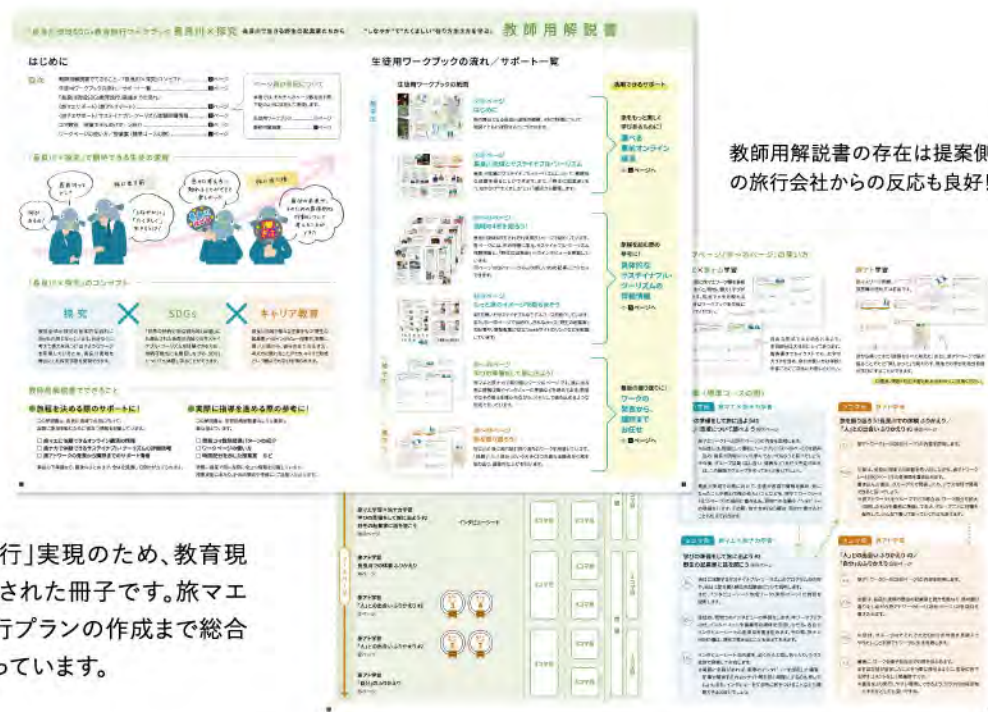
『長良川×探究』内容紹介

生徒版



野生の起業家のインタビューや長良川流域の紹介記事に加え、「旅マエ」「旅ナカ」「旅アト」の各段階で取り組むワークを通じて生徒の自己変容を促す構成になっています。

教師用 ハンドブック



「長良川流域SDGs教育旅行」実現のため、教育現場で使えるナレッジが掲載された冊子です。旅マエ旅アトの授業構築から、旅行プランの作成まで総合的にサポートする内容になっています。

事業責任者の声

営業を続ける中で痛感するのは、修学旅行の営業は本当に難しいということ。他地域との競合や旅行会社の提案力、生徒の嗜好など、さまざまな要因に左右されます。

その一方で、現在は企業研修や視察の受け入れに火が付き始めており、地道な積み重ねを通じて「選ばれる地域」としての価値を高めていきたいと考えています。

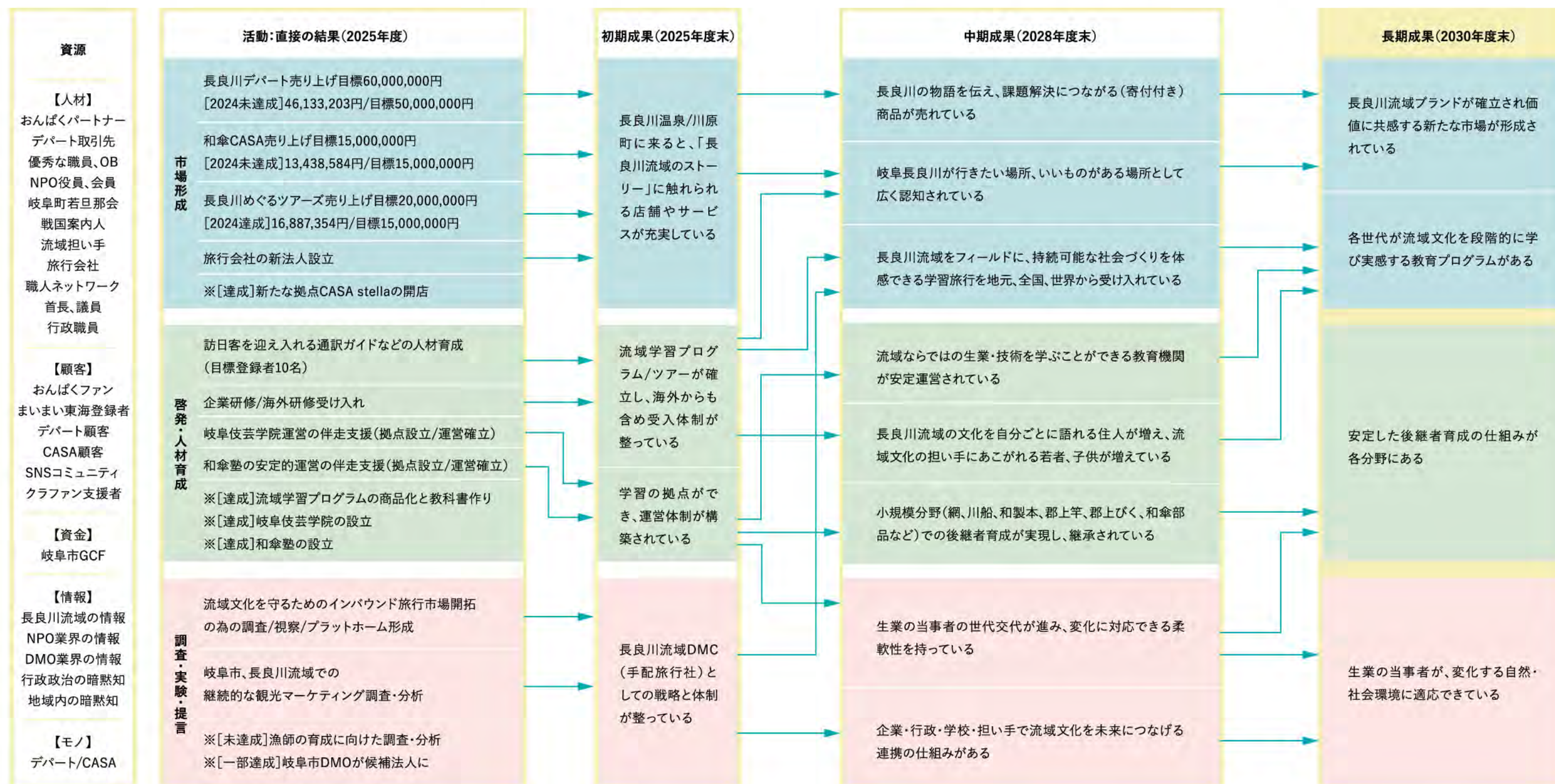
ORGANが2030年までに取り組む 「生業が次世代に受け継がれている長良川流域の実現」 に向けたロジックモデル

2022年度末、ORGAN職員一同でロジックモデルを考えるワークショップを行いました。最初にロジックモデルを作成してから約4年。当初は、合同会社めぐる（代表 木村真樹氏）の研修を受け、理事の蒲と籠原によって作成し、年度ご

とに見直しをしてきました。しかし今回は、日頃各事業に関わっている職員みんなで、あらためてロジックモデルと向き合いました。今、私たちが取り組んでいることが、どんな未来に繋がるのかを描き、見直すという時間を持つことができ

たのは大変有意義な時間だったと思っています。
2030年度を見据えて設定している【長期成果】は、今回一部変更をいたしました。昨年度までは「長良川ならではの生業文化が継続できる環境がある」としていましたが「生業の当事者が、変化する自然・社会環境に適応できている」に変更しました。新型コロナウイルスの蔓延で、社会や私たちの暮らし・考え方も少なからず変化しました。この先の未来においても環境の変化というものは起こり得ること。その中で何をするのかを見出し、しなやかに立ち振る舞う柔軟さも文化

の継承には不可欠ではないかと考えます。たとえば木造船の文化継承のためには川での新しいアクティビティを創り出すといったアイデアもその一つではないでしょうか。
啓発・人材育成では、かねてより構想のあった学校の設立が少しずつ見えてきました。また、長良川流域SDGsツアーの教科書作りも具体化しています。調査・実験・提言も長良川流域、特に岐阜市の観光において実りあるものにしていきたいと継続して活動しています。連携する各団体と協力しあいながら、今年度も活動を続けてまいります。



市場形成 CASE 1

インバウンド誘客 DMC事業

2018年の旅行業登録以降、「長良川めぐるツアー」のブランド名で外国人向けの高付加価値体験の造成や細々とした宿泊の手配を行ってきました。旅行者だからこそ展開できる「長良川船遊び」のブレイクなど明るいトピックもある一方で収益的には頭打ち。今後の事業のあり方を模索する中で、2023年のEssential Japan Travel(以下 EJT)との連携を契機に長良川温泉へのインバウンド宿泊誘客に新たな可能性を見出しました。

2024年には「DMC事業部」を立ち上げ、宿泊手配に本格的に着手。2025年以降はBtoBの予約システム導入による受け入れ体制の強化と海外エージェンツ向けモニターツアーの企画、海外商談会への出展などを通して、この部門をORGANの収益の柱の一つへと成長させていきたいと考えています。

またさらなる増加が見込まれる訪日客に応えるため長良川流域の豊かな資源を活かした体験コンテンツの造成に引き続き取り組み、流域の魅力を世界へと発信していきます。



実施してきた取り組み

コンテンツ造成

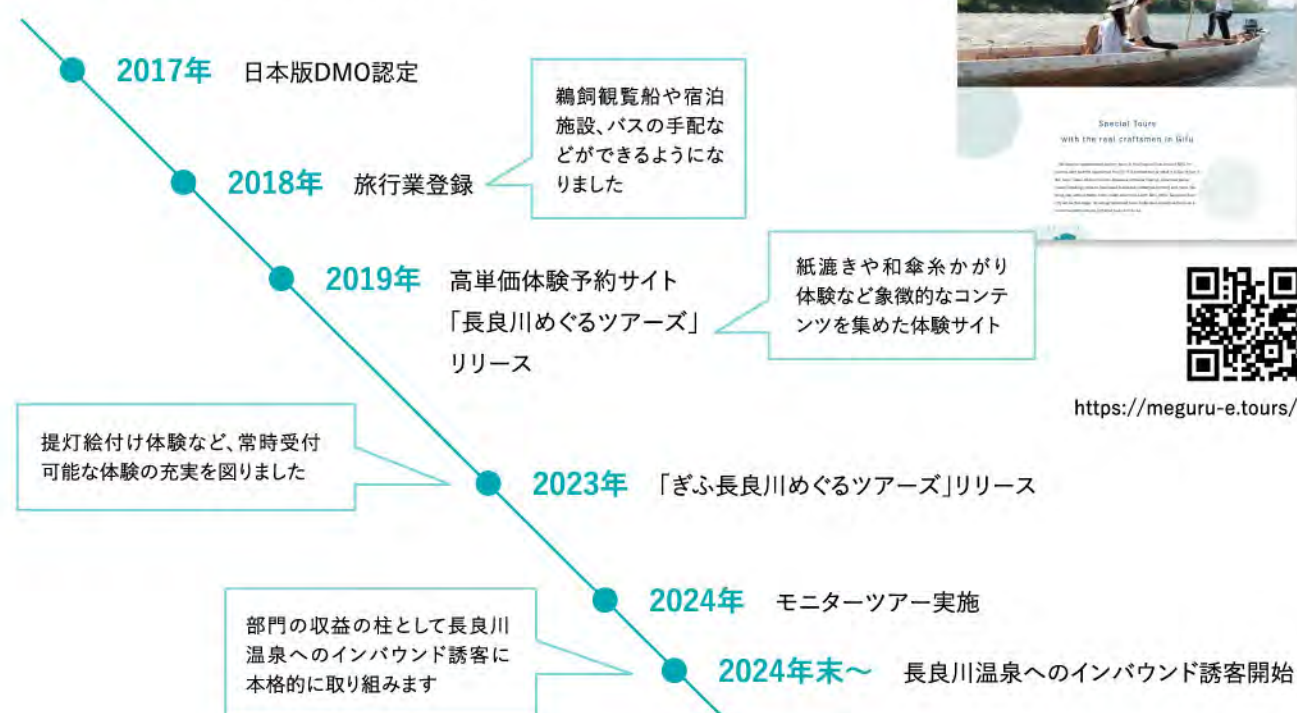
「長良川温泉に宿泊する外国人が滞在中に楽しむことができる体験を」という観点から既存コンテンツのブラッシュアップを含め造成を進めました。鵜飼や船遊び、工芸体験等の文化体験に加え、金華山ハイキングやサイクリングなどより幅広く魅力を体感し滞在満足度をあげる体験の造成に取り組んでいます。



モニターツアー受け入れ

長良川温泉旅館共同組合およびEJTと連携し、欧州現地の旅行会社を対象としたモニターツアーを実施しました。歓迎式では居合や鮎菓子づくりのデモンストレーションを実施。2日目以降はサイクリングや川原でのヨガなどを行いました。これまでに開催してきたモニターツアーよりも緊張感がありましたが、現地担当者の声に触れることができる得難い体験でした。今後も実際の誘客に向けて同様の取り組みを継続していきます。

ORGANの旅行事業のあゆみ



システム化

コンテンツ造成や旅館との関係構築と並行し、今後の予約拡大を見越して業務を円滑化するシステム導入が不可欠だと考えています。EJTが関わって成功を収めている木曽おんたけDMOの取り組みを参考にしながら、今後資金調達やシステム導入に先立つ業務の洗い出しを進めていきます。



2030年にむけて

※2030年はロジックモデルの長期成果を掲げている年

目的地としての「長良川流域」の確立

→まずは長良川温泉への宿泊誘客を定番化・通年化
→送客範囲を流域他市へ
→安定的な誘客実績を作り、流域事業に対するイニシアチブを獲得し、二次交通・荷物輸送など周遊インフラの整備に取り組む

事業責任者の声

部門立ち上げ以降、なかなか収益化に結びつかないジレンマを抱えてきましたが、長良川温泉へのインバウンド誘客は地域課題の解決にも資する魅力的な可能性だと感じています。旅行者の受け入れ拡大に伴い、ORGANだからこそ実現できる「長良川流域」の魅力を伝えるコンテンツづくりに挑戦し、地域とともに成長する事業へと育てていきたいと思っています。

CASA stella 開業

2024年度は川原町に新たな拠点を開業しました。岐阜の工芸と食文化に触れられる複合施設CASA stellaです。川原町のほぼ中央にある松井邸を約4ヶ月かけてリノベーション。もともとの建物がとても魅力的で、工事はインフラの整備等が中心でした。店内のしつらえも町家の構造を活かしています。吹き抜けの和傘、2階の広い空間のAKARI、和傘のQ&Aや製作工程を紹介する展示、エントランス部分のマップなど、それぞれに工夫を凝らしました。表の格子に設置した和傘は、町並みを鮮やかに彩っています。テナントとしては冷たぬき専門店に入居して頂き、川原町に新しい人の流れができました。

また、小売店の整備とともに進めたのが和傘づくりを学ぶ場の整備と和傘の原材料確保事業です。以上の3事業は日本財団様のご支援で実施しました。

CASA stella開業までのあゆみ

STEP 1 建物の改修

和紙の原材料問屋兼住居として使用されてきた町家。元の構造と、店のイメージをすり合わせながら設計して頂きました。施工は入札により事業者選定をさせて頂きました。町家オーナー様のご協力もあり、改修することができました。



STEP 2 店内のしつらえ

天窓から差し込む光に照らされ、美濃手すき和紙の美しい透かし模様が浮かび上がります。

幸草紙工房、Corsoyard、Warabi Paper Company、保木工房の和紙を用い、高橋和傘店田中美紀さんに和傘に仕立てていただきました。1階からは見上げて、2階からは間近に、それぞれの角度で和傘とともに和紙の豊かな表情をお楽しみいただける装飾です。



STEP 3 和傘の製作工程

和傘の部品や製作工程についてお話しする際、言葉だけで想像していただくのは難しく、もどかしさを感じていました。そこで、写真と文章を組み合わせた掲示物を制作。よく質問される「和傘について」もQ&A形式で掲示物を制作したことにより、視覚的に理解を助け、和傘に対する関心を高めていただける展示となりました。



STEP 4 周辺マップの壁画

川原町周辺に点在する魅力的なお店をめぐり、まち歩きを楽しんでいただきたいという思いから、壁面にマップを描きました。

長良川デパートやてしごと町家CASAの壁画も手掛けた、やまだまりこさんの直筆イラストです。



STEP 5 AKARIギャラリー

2023年度事業「明星（あかりぼし）」から構想を練り、今回の改修で展示をブラッシュアップ。黒い床に映り込むAKARIは、鵜飼の篝火が長良川の水面に揺れる光景を思わせ、幻想的な雰囲気漂わせます。

その美しい光景は、写真撮影スポットとしても人気を博しています。



てしごと町家CASA改修・ エゴノキ獣害対策

これまでの活動の中で、長良川流域文化の継承において、市場形成、後継者育成、原材料確保の3本柱の重要性を強く感じています。本事業では、CASA stellaの開業（市場形成）以外にも2つの事業を行いました。1つはてしごと町家CASA改修です。和傘職人さんにヒアリングを行いながら、和傘づくりを学ぶ環境を整えました。もう1つはエゴノキの獣害対策。和傘のロクロをつくるのに不可欠なエゴノキの芽を鹿の食害から守る防獣ネットの設置を行いました。



事業責任者の声

すでに稼働している和傘CASAとORGANキモノを移転し、新たな施設をつくることには大きな意味があります。まず知ってもらうこと。魅力を感じていただくこと。そこからすべてが始まります。脈々と受け継がれてきた和傘や提灯の匠の技、そして代々受け継がれてきた松井邸。一朝一夕では生まれない積み重ねの価値を感じることができる施設です。ここに訪れることが、未来につながる希望の糸口を生み出し、やがて課題解決の一助となることを願っています。（河口）

CASA stella開業をはじめとした3事業は、これまでの活動で見えてきた、今着手すべきことの集大成のような事業であると感じています。和傘をはじめとした長良川流域文化に、さまざまな角度から触れる人を増やし、ともに課題に取り組む人の輪が大きくなると良いと思います。（熊田）

協働事業

みんなの図書館 おとなの夜学

ぎふメディアコスモス開館時から岐阜市立中央図書館「おとなの夜学」の企画運営を担当してきました。コンセプトは「岐阜に在るのに“知らなかった”岐阜を知る。岐阜ならではの知性が集まり対話する、おとなの為のまなびの時間」です。2024年3月の出張講座「岐阜の宝物庫 護国寺で出会う1000年の美術」で開催50回を数えました。テーマ選定から登壇依頼、事前打ち合わせ、当日運営。どんな組み合わせの顔



ぶれでお話しいただくとより魅力的な講座になるのかなど、講座ごとに工夫しています。また2021年度からはシビックプライドライブラリーでの展示企画も担当(年2回)。図書館を訪れるみなさんに学びを深めていただけるように、写真や道具などの展示をしています。ブックレット(冊子)も2024年度で第18号を発行。開催済みの講座から年に2つのテーマを選び、1講座ごとに1冊の冊子にしています。

過去に開催した講座(一部)



岐阜においしいものってあるの?

【ゲスト】泉善七×平工顕太郎
第一夜の講座です。現在のシビックプライドライブラリーでの開催が定番となる前は、つくるスタジオ、かんがえるスタジオ、金華山テラスなど、メディコス内のいろいろな場所で開催していました。(2015年12月19日)



世界都市金沢に学び語る「岐阜らしさとは何か」

【ゲスト】浦淳×内田奈美
お二方とも岐阜県以外から。金沢のまちづくり実践事例とその背景にある考え方、また元金沢市長の山出さんのお話など。ブックレット化もしています。(2023年2月13日)



【出張講座】岐阜の宝物庫 護国寺で出会う1000年の美術

【ゲスト】廣瀬良倫
2022年からは図書館以外の場所出張講座を開催。出張講座の第2回が本講座です。その場所でしか触れられないものを体感して頂けるように企画しています。(2024年3月2日)

アーカイブ



各講座はYoutubeで動画配信をしています。



事業責任者の声

1つのテーマについて複数人に講演いただくことで、単独では引き出せないトークが展開され、担当者も毎回楽しみに当日を迎えています。(事前打ち合わせが盛り上がることも多々あります。)おとなの夜学で取り上げていない、まだ知られていない「岐阜の宝」にスポットを当て、アーカイブしていきたいと考えています。

受託事業

ぎふメディアコスモス コンセプトブック制作



ORGANの周りでは、建設前から参画したり、関心を寄せていた方も多い「ぎふメディアコスモス」。2025年7月に開館10周年を迎えました。その約1年前である2024年度初め、岐阜市がぎふメディアコスモスの「コンセプトブック」制作事業者を公募型プロポーザルで選定すると発表しました。ORGANとして日々お世話になっている施設ですが、市民としてもぎふメディアコスモスを活用している職員も多く、ぜひ制作したいと手を挙げました。プロポーザル参加を決めてから提案までミーティングを重ね、内容をまとめ、プレゼンに臨みました。結果は採択となり、冊子制作するなかでぎふメディアコスモスへの理解がさらに深くなったように思います。本誌では、そのプロセスや制作エピソードをご紹介します。

【みんなの森 ぎふメディアコスモスとは】 ぎふメディアコスモス、愛称メディコスは、「知の拠点」の役割を担う市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー等からなる複合文化施設です。(公式HPより)



市民ワークショップ「メディコス×〇〇＝10年後のメディコスとわたし」の様子。

STEP 1

編集方針・ネーミング 検討(6月)

プロポーザルで示された目的を達成するための方法を探りました。公共施設なので「みんなの」メディコスではあるのですが、もっと「わたし」にフォーカスした方向性にしよう、と話合いました。

STEP 2

取材・ライティング (10月～12月)

メディコスの担当者さんと、メディコスのあゆみ、市民活動登録団体のなかから取材先を決めてインタビューを行い、記事を作成しました。メディコスはこんな活用もできるのか、と知らない一面に触れることも。

STEP 3

ワークショップの開催 (10月～12月)

メディコスの将来ビジョンを考えるワークショップを開催しました。自分の希望とメディコスを掛け合わせてアイデア出し。切実な案から壮大な宇宙まで広がる計画まで。最後は一枚のイラストにして誌面に。

STEP 4

デザイン・編集

全体にちりばめられた惑星のキャラクターは「コスモス」「宇宙」からやってきた仲間たちです。また、ページをめくると木々が枝葉をのびし、「みんなの森」が作られていきます。デザインはORGANデザイン室、写真は奥村昭徳さん、未来のメディコスのイラストはすぎやまめぐみさんに担当頂きました。



メディコス編集講座 修了生との協働

メディコスでは2021年より「編集講座」を開講。毎年20名ほどの修了生を輩出しています。今回は講座修了生にもライターとして参加して頂きました。市民活動ページ(P19～22)をご覧ください。

事業責任者の声

編集を担当しました。改めていろいろな人の関わり方や声を知ること、岐阜市へのシビックプライドとなっていることを感じました。これはまさに、ORGANも目指していること。具体的な場、施設ができることで、「街を愛して自分で幸せになろう」という市民を増やしていけるこの動きは素敵だな、と思いました。ますますぎふメディアコスモスが好きになりました。(奥村)

2023年度 活動計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

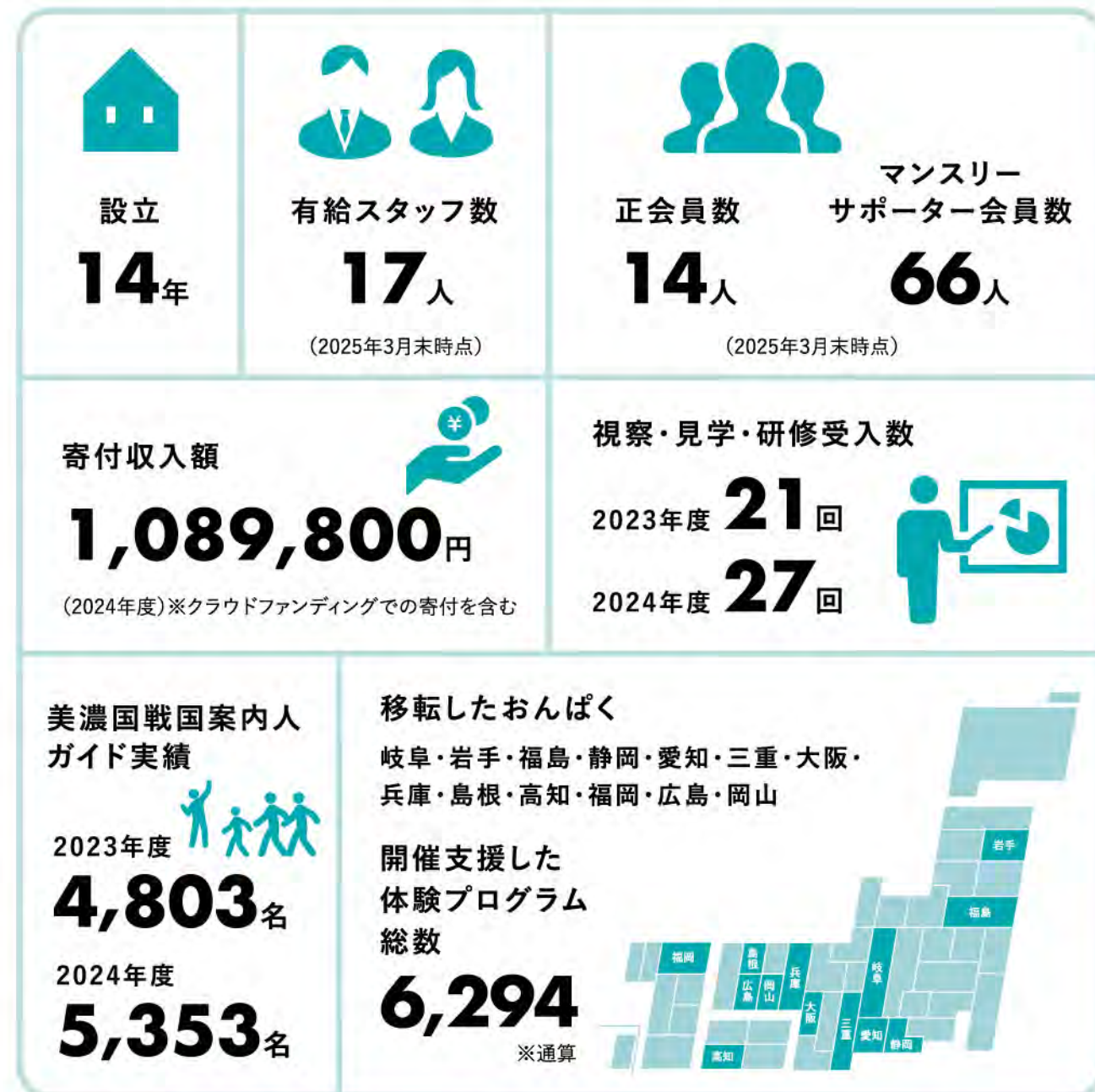
科 目	金 額	(単位:円)	
I 経常収益			
1.受取会費			
正会員受取会費	160,000		
入会金会費		160,000	
2.受取寄付金			
受取寄付金	685,550		
資産受贈益			
施設等受入評価益		685,550	
3.受取助成金等			
受取助成金	7,043,800		
受取補助金	22,149,680	29,193,480	
4.事業収益			
事業収益	110,994,113	110,994,113	
5.その他収益			
受取利息・配当金	27,322		
受取賃借料	3,729,032		
為替差益			
雑収入	449,163	4,205,517	
経常収益計			145,238,660
II 経常費用			
1.事業費			
(1)人件費			
役員報酬			
給料手当	19,624,400		
臨時雇賃金	10,132,446		
ボランティア評価費用			
法定福利費	4,051,669		
退職給付費用			
通勤費			
福利厚生費			
人件費計	33,808,515		
(2)その他経費			
売上原価	34,518,305		
業務委託費	47,005,267		
諸謝金	471,967		
印刷製本費	2,975,824		
会議費	537,508		
旅費交通費	2,411,942		
車両費			
通信運搬費	1,218,518		
消耗品費	1,386,036		
修繕費	9,091		
水道光熱費	140,414		
地代家賃	3,526,482		
賃借料	494,993		
施設等評価費用			
減価償却費	2,207,631		
保険料	367,042		
諸会費・負担金	12,300		
租税公課	50,250		
広告宣伝費	486,848		
研修費	179,827		
支払手数料	1,907,503		
交際費	436,325		
寄付金	125,291		
雑費	182		
その他経費計	100,469,546		
事業費計			134,278,061
2.管理費			
(1)人件費			
役員報酬			
給料手当	2,847,600		
法定福利費	508,014		
退職給付費用			
通勤費			
福利厚生費	175,758		
人件費計	3,531,372		
(2)その他経費			
印刷費		158,544	
会議費		11,423	
旅費交通費		147,368	
車両費		71,891	
通信運搬費		32,800	
消耗品・事務用品費		588,499	
印刷製本費		1,679,244	
修繕費			
水道光熱費			
地代家賃			
賃借料			
減価償却費			
保険料	297,132		
外注費			
研修費			
諸会費・負担金	176,250		
支払利息	835,567		
租税公課	1,918,139		
支払手数料	999,324		
交際費	196,084		
寄付金	141,284		
雑費			
その他経費計	7,253,549		
管理費計			10,784,921
経常費用計			145,062,982
当期経常増減額			175,678
III 経常外収益			
1.固定資産売却益			
2.過年度損益修正益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
1.固定資産除・売却損			
2.災害損失			
3.過年度損益修正損			
経常外費用計			0
V 経理区分振替額			
経理区分振替額			
税引前当期正味財産増減額			175,678
法人税、住民税及び事業税			133,100
当期正味財産増減額			42,578
前期繰越正味財産額			14,579,209
次期繰越正味財産額			14,621,787
※今年度はその他の事業を実施していません			
この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人ORGANの収支を正しく示していることを認めます。			
担当理事	龍原潤一		
監事	田代達生		

2024年度 活動計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

科 目	金 額	(単位:円)	
I 経常収益			
1.受取会費			
正会員受取会費	130,000		
入会金会費		130,000	
2.受取寄付金			
受取寄付金	1,089,800		
資産受贈益			
施設等受入評価益		1,089,800	
3.受取助成金等			
受取助成金	40,472,362		
受取補助金	12,016,819	52,489,181	
4.事業収益			
事業収益	122,762,744	122,762,744	
5.その他収益			
受取利息・配当金	37,921		
受取賃借料	4,379,109		
為替差益			
雑収入	424,476	4,841,506	
経常収益計			181,313,231
II 経常費用			
1.事業費			
(1)人件費			
役員報酬			
給料手当	24,615,337		
臨時雇賃金	11,325,509		
ボランティア評価費用			
法定福利費	4,360,056		
退職給付費用			
通勤費			
福利厚生費			
人件費計	40,300,902		
(2)その他経費			
売上原価	38,241,751		
業務委託費	47,713,125		
諸謝金	282,857		
印刷製本費	1,792,755		
会議費	730,638		
旅費交通費	2,134,204		
車両費			
通信運搬費	899,397		
消耗品費	1,972,802		
修繕費	822,311		
水道光熱費	164,084		
地代家賃	5,408,829		
賃借料	589,114		
施設等評価費用			
減価償却費	2,373,264		
保険料	256,480		
諸会費・負担金	11,900		
租税公課	34,700		
広告宣伝費	1,053,356		
研修費	407,284		
支払手数料	2,433,183		
交際費	208,857		
寄付金			
雑費	40,000		
その他経費計	107,570,891		
事業費計			147,871,793
2.管理費			
(1)人件費			
役員報酬			
給料手当		3,286,600	
法定福利費		508,005	
退職給付費用			
通勤費			
福利厚生費		165,361	
人件費計		3,959,966	
(2)その他経費			
印刷費		266,980	
会議費		9,288	
旅費交通費		181,755	
車両費		27,622	
通信運搬費			
消耗品・事務用品費			
印刷製本費			
修繕費			
水道光熱費		606,990	
地代家賃		1,696,152	
賃借料			
減価償却費			
保険料		60,840	
諸謝金		8,000	
外注費			
研修費			
諸会費・負担金		206,250	
支払利息		1,371,131	
租税公課		4,041,964	
支払手数料		822,252	
交際費		71,239	
寄付金		13,569	
雑費		54,717	
その他経費計		9,438,749	
管理費計			13,398,715
経常費用計			161,270,508
当期経常増減額			20,042,723
III 経常外収益			
1.固定資産売却益			
2.過年度損益修正益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
1.固定資産除・売却損			
2.災害損失			
3.過年度損益修正損			
経常外費用計			0
V 経理区分振替額			
経理区分振替額			
税引前当期正味財産増減額			20,042,723
法人税、住民税及び事業税			96,500
当期正味財産増減額			19,946,223
前期繰越正味財産額			14,621,787
次期繰越正味財産額			34,568,010
※今年度はその他の事業を実施していません			
この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人ORGANの収支を正しく示していることを認めます。			
担当理事	龍原潤一		
監事	田代達生		

数字でみるORGAN



ORGAN事業収益推移



NPO法人ORGAN 2025年度事業方針

インバウンド誘客と

長良川流域観光コンテンツのブラッシュアップ

長良川DMO (Destination Management/Marketing Organization) として2018年に登録され、観光地域づくりに取り組んできたORGANですが、より一層企画・販売に力を注ぐためDMC (Destination Management Company) としての活動を始めました。長良川流域の現場において、直接的に観光商品の企画・手配を行うのがDMCの役割です。インバウンド誘客に特化した旅行会社と連携し、ツアーオペレーターの皆様とともに、岐阜での旅をコーディネートしています。2025年度はインバウンド誘客の先駆的な他地域から学び、システムや情報管理などの受け入れ態勢を整えている状況にあります。

インバウンド誘客のメリットとして挙げられるのは、やはり経済効果です。これまでORGANが取り組んできた「市場形成」を、伝統工芸などの「もの」だけでなく、観光や体験と

いった「こと」にまで拡げます。和傘で取り組んできたように、市場形成を契機とした持続可能な文化の継承、その仕組みづくりをしていきたいと考えます。

また、岐阜和傘・芸舞妓は、それぞれの主体となる団体様とともに、後継者育成に取り組んでいます。2023年度から3か年、休眠預金活用事業として学校形式で学ぶ場づくりをしてきました。2025年度は、和傘塾・岐阜伎芸学院とともに動き出しました。(※和傘塾についてはプレ開塾。本開塾は2026年4月) 産業として文化が継承されていくためには、市場が成り立っていることと、それを支える担い手の両輪が必要です。こちらは、次号のアニヴァーサリーレポートでご報告したいと思っております。

2025年度、そしてこれからも、長良川流域文化をつなげていくため、まい進してまいります。



ORGANの活動に参加するには？

NPO法人ORGANでは、共感いただけるみなさんとの様々な関わり方をご用意しています。



NPO法人
ORGAN



ORGAN長良川サポーター(マンスリーサポート会員)

ORGANの活動全体を応援する月額寄付会員。webサイトを通じてリアルタイムに活動報告をお送りします。

マンスリーサポート会員 入会ご希望の方

合同会社めぐるの運営する社会課題解決支援サイト「凸と凹」内のプロジェクトからマンスリーサポーター会員に登録できます。



<https://deco-boco.jp/projects/view/13>

プロボノ ORGANが定義する特定のミッションに対して一緒に取組する人を募集します。今後のワークショップを踏まえ募集、活動の開始をします。